



東海構造研究グループ

平成16年度活動報告集

平成17年4月

挨拶

東海構造研究グループ（略称 SGST）は、土木構造に関するあらゆる領域について研究する団体として、構造に関係する約10の大学等の教育機関と約30社の法人会員（官公署、企業）、および、構造に関する業務、あるいは、研究に携わる約130人の個人会員から構成されています。

このグループによる研究会は、昭和53年に名古屋大学名誉教授の福本嘯士先生が創設し、以後、組織改革が行われ、平成元年4月から新しい組織規約が作成され今日に至っています。

これまで、この研究グループから多くの研究成果が輩出されています。また、立場を異にする会員間の相互理解や親睦を深めるのにも大きな役割を果たしてきました。隔月で開催される定期研究会で、その報告が行われます。この定期研究会は、立場を異にする者の間での情報交換の場となっています。さらに、重要度の高いテーマについては、研究委員会による重点的な研究、討議が行われています。

小生が代表に就任して、2年が経過しました。本年度も2001年から始まった土木学会の継続教育制度を活用し、隔月行われている定期研究テーマをCPDプログラムとして申請を行っています。今年は計7つのテーマで申請し、すべて受理されています。これによって会員の皆様方の土木技術者としての資質向上に役立っていると思います。

11月には、昨年引き続き現場見学会も行いました。一泊二日で金沢大学主催の「橋の再利用コロキウム」に参加し、旧橋を再利用して建設された「金名橋」を見学しました。12月には、「鋼構造研究とその基準化」について、福本嘯士先生に講演していただき、世界の動きについて理解を深めることができました。

今後、この研究グループは、社会とこれまで以上に深くかかわり、社会の選択に委ねられる部分が多くなると予想されます。研究成果の内容も一般の人々に正確な関心を持っていただくため、SGSTのホームページの充実を行い、21世紀の新しい街づくりに貢献していく所存です。

最後になりましたが、平成16年度SGST活動資料集の発行に際し、幹事の皆様にはこの場をかりて厚くお礼申し上げます。

平成17年4月から、愛知工業大学の青木徹彦先生がSGST代表になられます。青木代表のもとで、東海構造研究グループが益々活発になることを、心より願っています。

本年度 SGST 代表 大同工業大学

事口壽男

東海構造研究グループ

Study Group of Structures in Tokai

2005年3月

東海構造研究グループとは

東海構造研究グループ（略称 S G S T）は、土木構造に関するあらゆる領域について研究する団体として、構造に関する諸団体（官公署、企業）および構造に関する業務あるいは研究に携わる個人とから構成されています。

このグループによる研究会は昭和53年に創設され、以後、組織改革が行われ、平成元年4月から新しい組織規約が作成され今日に至っています。これまでに種々の研究結果を挙げており、また、立場を異にする会員間の相互理解や親睦を深めるのにも大きな役割を果たしています。

沿革

- 昭和53年 4月 東海鋼構造研究グループ創設。代表 福本 嘯士
主として鋼構造部材の抵抗強度の信頼性評価が研究されました。
- 昭和59年 8月 東海構造研究グループと改称し、構造全般を扱うようにし、官公庁、企業、教育機関から多くの新規の会員入会がありました。
- 昭和61年11月 代表 長谷部 宣男
- 平成 元年 4月 組織規約が作成され、活動範囲を広げました。
- 平成 3月 4月 代表 宇佐美 勉
- 平成 7年 4月 代表 梶川 康男
- 平成 9年 4月 代表 山田 健太郎
- 平成13年 4月 代表 塩見 弘幸
- 平成15年 4月 代表 事口 寿男

平成17年度 東海構造研究グループ代表および事務局

代表 青木 徹彦 〒470-0392 豊田市八草町 1247
愛知工業大学 工学部都市環境学科
TEL 0565-48-8121 内 307
FAX 0565-48-3749
E-Mail aoki@ce.aitech.ac.jp

事務局 播金 昭浩 〒441-8510 豊橋市明海町 1 番地
(幹事長) トピー工業株式会社 鉄構事業部 技術部
TEL 0532-25-4850
FAX 0532-25-9557
E-Mail a-harikane@topy.co.jp

長屋 五郎 〒441-8510 豊橋市明海町 1 番地
(幹事) トピー工業株式会社 技術研究所
TEL 0532-25-5354
FAX 0532-25-2384
E-Mail g-nagaya@topy.co.jp

■会の運営

会の運営は主として会員の納める会費があげられています。会費は会員の区分に応じて次のように決められています。

正会員	年額	2,000円
賛助会員	年額	1,000円
特別会員		
第1種	年額	30,000円 研究委員会分担経費：70,000円
第2種	免除	
名誉会員	免除	

特別会員の第1種と第2種については、研究会などへの行事参加への区別は全くありません。特別な事情により会費納入が無理な団体に対して、第2種は設けられていますが、現在はできるだけ第1種へ入会していただくようお願いしています。

■東海構造研究グループの活動

研究調査

研究会活動の中心となるもので、構造に関する種々の分野について、研究および調査を行います。隔月で開催される定期研究会で、その報告が行われます。この定期研究会は、立場を異にする者の間での情報交換の場となっています。また、重要度の高いテーマについては、研究委員会による重点的な研究、討論が行われています。平成15年度より、定期研究会は(社)土木学会継続教育プログラム(CPD)の認定を受けております。

拡大研究会

隔年で1回、中部地区だけでなく全国から論文を集め、1日がかりの研究会を開催しています。

第1回 平成3年11月 11編の論文

第2回 平成5年12月 12編の論文

「骨組構造物の座屈設計に関するフォーラム」も実施

現場見学会

会員全体が参加する行事として、不定期に開催されています。本年度は金沢大学主催の「橋の再利用コロキウム」に参加し、旧橋を再利用して建設された『金名橋』を見学会を行いました。

構造物研究および指導の委託

構造物に関する研究の委託および指導を受け入れています。委託の内容によっては委員会を作り、検討を行っています。

出版

本会の成果として、「鋼構造部材の抵抗強度の評価と信頼設計への適用」(1980)および「骨組構造物の座屈設計に関するフォーラム」(1994)を「橋梁と基礎」にそれぞれ2回に分けて発表しています。また、研究会での資料をまとめて「活動報告資料集」を毎年発行しています。さらに、拡大研究会における成果として「SGST拡大研究会論文集」を隔年で発行しています。

講演会、講習会

構造に関する講演会および講習会の主催または協賛を行っています。

協賛例：平成2年度 土木学会中部支部技術講座「構造物の設計にかかわる最近の話題」

平成4年度 土木学会中部支部技術講座「構造物設計における最近の話題

－景観設計とライフライン構造物の設計および管理－

平成6年度 土木学会中部支部技術講座「土木構造物の維持・管理・耐久性」

平成7年度 土木学会中部支部技術講座「阪神大震災から得た教訓と今後の耐震設計

－橋梁構造物－

組織と運営

■会員

東海構造研究グループは、以下に示す会員によって構成されています。会員には正会員、賛助会員、特別会員および名誉会員の4種があります。

会員区分	資 格
正 会 員	本会の各種事業の主体となって活動する次の各号に該当する者 (1) 構造物に関する業務に従事する者 (2) 構造物に関する学職経験者 (3) 前号に準ずる者
賛助会員	正会員の研究活動に参加しまたは支援する正会員の経験者およびこれに準ずる者
特別会員	本会の目的および事業に賛同し、本会を援助する会社および団体、特別会員は第1種と第2種に分かれ、第2種の会員は会費納入の義務を負わない。
名誉会員	本会および構造物に関する功績が特に顕著であって、本会の総会において推挙された者

■総会および全体研究会

重要な議決事項は総会で審議されます。総会は年1回開かれることになっています。全体研究会は、隔月で開催されています。

■役員その他

本研究グループでは代表、幹事長、幹事および会計幹事の役員をおき、会の運営にあたっています。次年度の役員は次の通りです。

代表	青木 徹彦	愛知工業大学 工学部都市環境学科
幹事長	播金 昭浩	トピー工業 鉄構事業部 技術部
事務局担当	長屋 五郎	トピー工業 技術研究所
会計担当	森田 俊樹	トピー工業 鉄構事業部 技術部
会計監査	田中 健一	JIPテクノサイエンス 名古屋テクノセンタ技術営業部
議事録担当	古田土 功	トピー工業 鉄構事業部 技術部
	高橋 昌利	日本車輛製造株式会社 鉄構本部 設計部
企画担当	田中 信治	中部復建株式会社 設計第一部
	鷺見 英吾	八千代エンジニアリング 名古屋支店技術第1部
研究会担当	海老沢 健正	名古屋工業大学 工学部 社会開発工学科
	葛 漢彬	名古屋大学 大学院 工学研究科
	渡辺 孝一	名城大学 理工学部
	忠 和男	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科
	深田 幸史	金沢大学工学部土木建設工学科
	鈴木 森晶	愛知工業大学 工学部都市環境学科
HP担当	小澤 優二	建設技術研究所 中部支社技術第二部